

令和4年度 第2回運営協議会議事録

開催日：令和4年11月7日(月) 14:15～15:30 於：プレゼンテーションルーム

出席者：【委員(敬称略)】岩瀬絢市、上田えりか(欠)、岡崎裕、新納孝啓、田中正視、寺脇 久人
【事務局員】長岡校長、杉野事務長、田中教頭、井内首席、宮武首席
【学校関係者】各分掌長、学年主任、初任者

1 はじめに

学校長挨拶(校長)

- ・現在の就職希望者の内定率93%で昨年度の同時期より30%近く高い。
- ・文化祭は予定通り実施され、修学旅行は沖縄から関東方面に目的地を変更して実施予定。

2 連絡及び報告

(1) 今年度の生徒指導状況について(生徒指導部)

- ・問題行動が起こってから対応するのではなく、問題行動が起こらないよう事前指導が重要であると考え指導している。就職等進路を見据え、1年から頭髪指導や身だしなみ指導を行っている。
- ・欠席、早退やトイレ退出も増加しつつある。コロナの影響か、出席停止が多くなっている。
- ・基本的な生活習慣の確立が困難な生徒が増加しており、継続した指導が必要となってきた。
- ・懲戒案件は、昨年度の年間延べ指導生徒数を超え、既に20名を超えている。例えば、喫煙について「悪いこと」という感覚が薄れてきているように感じる。未然防止の声掛け指導を一層徹底する必要がある。入学生徒の様子が変わってきている。全体への声掛けでは理解できない生徒が増えている。

(2) 保健室来室・スクールカウンセラー活用状況について(生徒保健部)

- ・保健室来室は、学校行事や祭りの影響で毎年同じような時期に利用人数が増減している。今年度は人数が増えている状況。今年度は様々な行事が実施されたことが影響していると判断する。
- ・養護教諭は令和2年度より単数配置となり、丁寧な対応が難しい状況。
- ・はじめは腹痛などを訴えていても、話を聞くと悩みを相談する生徒も多く丁寧な対応が必要。
- ・外傷については体育の授業中が多い。一方、学校外での怪我、慢性的な痛みや包帯などの消耗品を求めて来室する生徒が少なくない。
- ・今年度はコロナの不安相談等が増えており、既に昨年度の総数を超えている。また、文化祭などの行事や部活関係のトラブルにより友人関係で悩む生徒も非常に多い。
- ・健康相談は学校生活に関する悩みが多い。また、何も聞いても話さない、原因不明の不安、ただ泣くといった生徒もいる。
- ・SCの活用は今年度に限る増回数12回を含め全26回と多いが、1年では中学校でカウンセリングを受けていた生徒が引き続き面談を希望していたり2年では急に涙が出るといった理由が分からない不安感によって相談に来る生徒が増加している。3年は他学年より比較的少ない。
- ・SC面談の主訴は家庭環境に起因するものが多いが、理由がわからず登校が困難になっているケースも多い。昨年まで休校が多かったため登校すること自体にストレスを感じていると推測する。

(3) ヤングケアラー調査結果について(首席)

- ・今年度はGoogleフォームを活用して実施した結果97.3%の回答率だった。
- ・健康状態は「心が時々しんどい」「いつもしんどい」と回答した生徒が6.3%いた。
- ・普段の学校生活は「学校では1人で過ごすことが多い」「遊んだりおしゃべりする時間が少ない」と回答した生徒がそれぞれ、8.3%、4.4%いた。
- ・悩み、困りごとは「学校生活に必要な学費、授業料等」「家庭の経済状況に悩んでいる」と回答した生徒がそれぞれ1.4%、1.8%いた。

- ・色々な家族、きょうだいの世話をしている生徒が在籍しており、家事（食事の準備、掃除、洗濯）、兄弟の世話や見守り、身体介護、通院、金銭や薬の管理といった多岐の回答があった。
- ・世話・家事の回数は、ほぼ毎日が12.8%、3～5日が8.4%あり、平日の家事や世話の時間については29%は1時間未満と回答したが、13.5%の生徒は1～3時間世話していると回答した。
- ・家族のことや世話をしていることについて誰かに相談したことがあるかについては63.8%が相談したことがなく、相談対象に「当てはまる家族なし」と回答した生徒は33%であり相談しづらいという現状が伺える。
- ・あれば良いものとしては、病気や障害のケア、代わりに世話をしてくれる人、相談に乗ってくれる人など、「人」にかかるものが多くあった。
- ・ヤングケアラーの傾向となる条件にあてはまる生徒は10名が抽出された。一方、心理的なケアが必要となる生徒で33名の生徒が抽出されたが、ヤングケアラーでの10名の抽出者と重複する者が1人のみであり、一見相乗的な関係性は低いように見えるが、家庭での精神的負担の大きさにより、学校生活における負担に気づいていない生徒がいるとも考えられる。

(4) 生徒の地域連携活動や郊外における活動について（首席）

- ・コロナ感染が少し収まった状況での地域連携活動について紹介
 - 夏休み理科実験教室
 - <理科実験教室>
 - 対象：樽井小学校5・6年の希望児童、保護者に限定
児童9名、保護者3名が参加
 - 実験内容：液体窒素を使用した超低温状態における実験
風船の収縮、バナナの急速冷凍など本校生徒がアシストに入り、参加児童が実験機器や薬品を扱いながら実験に参加した。
 - 参加者からの意見：5年生の児童、保護者からは来年も是非参加したいとの声が多くあった。
 - ・イオンモールでのイベント（9月18、19日）に参加
 - 美術部によるフラッグデザイン作成
 - 書道部による作品展示（2階フロアに2週間ほど展示）
 - 家庭科による作品展示、エプロンやあずま袋の展示
 - 私達が食べたい夢のメニュー（1年の家庭基礎、3年のフードデザインで募る。
5店舗で採用されたジェラートや天井等が実販）
 - ワークショップの開催（色が選べるスライムを製作）→事前周知が無かったにも関わらず準備していた100組分全てを完売（無料です）した。本校生徒もアシストに入り、幼児、児童を指導した。
 - ・吹奏楽部による演奏
 - ・少しずつコロナ感染拡大前の状況に戻ってきている。今後も地域連携や他校種との連携を進めていく。

◆質疑応答・意見

(岡崎委員より)

出席停止が増加しているのはコロナが原因であるという話があったが、出席停止の原因別データは取っているか？

コロナと問題行動等による出席停止は要因が違うので、長期的な分析を行うならば、分けておく必要がある。出席停止の要因をインフルエンザや懲戒案件等と分けるほうが良いと考える。

(岡崎委員より)

喫煙行為等を指導する中で、警察との連携を深めるきっかけになるような発言があれば上手く活用すればよいと考える。

(寺脇委員より)

就職希望者の決定率が現時点で90%と高いことについて要因は？

生徒指導の面では、樽井駅前まで巡回しているにも関わらず懲戒は増えているのか？

(進路指導主事より回答)

昨年度は就職率が約60%。求人が少ないアパレル関係の希望生徒が多かったことが要因の一つとして考えられる。今年は求人の数がコロナからの回復に伴い増加している。校内的には、昨年度の結果を鑑み、今年度は昨年度+ α の就職指導を実施した。作文力や、学力試験対策で個別の指導を行うなど対応を行った。これらの要因が重なり、就職率の向上につながったと考えられる。

(進路指導主事より)

昨年度は前半がSNS絡みで数件の案件があったが、後半は少なかった。今年度は、年度当初から案件が頻発し、下校指導や登校指導、校内見回りを強化したため校外まで対応できていない。これまでと違い、不適切行為を現認されても認めないケースも急増している。今後、教員の負担も考えながら対応を模索している状況。

3 協議

(1) スクール・ポリシーの策定に向けたスクール・ミッションの制定について

最終的には、スクール・ポリシー（3つのポリシー）を策定する前段階の現状の再構築を行う。

- ①校種・立地・理念に相当する内容（どのような学校であるか）
- ②社会的な期待（どのような生徒を育てるか）
- ③目指す教育（教育の方針）
- ④特色、強み、独自性（実践しようとする具体的な教育内容）

について、スクール・ポリシーPTでの検討内容を説明。

◆提言、意見等

(寺脇委員より)

スクール・ミッションについては、これまでも取り組んできたことや現状を整理するものであるため、提示された文言はそのままでもいいのでは？一方、ポンチ絵などを付加すれば一層わかりやすくなると思う。

(田中委員より)

高校生が持つ力を発揮できる場を以下にしてセッティングしてやる必要があるのではないかと。まさに「地域連携」が必要になってくるのではないかと。漁業組合と協力してなにわの海づくり大会に高校生が参加、鳴滝小学校がSDGsの発表のために、泉南市の役所と協働など役所や団体と連携して具体的な活躍の場を用意し実経験させる場が必要。

(岡崎氏)

公立高校で打ち出せるポリシーは、大体「豊かな心」などになってしまう。やむを得ないとは思いますが、一方でチャンスだとも思う。学校のアイデンティティを見つけ出す大きなチャンスになる。例えば、SDGsの文字が出てこなくても、それに対応していくということを公に発信するチャンスである。また、この地域だからこそ求められる人材は何かということを出すチャンスであり、地域の人と話し合う機会となる。また、泉鳥取高校の伝統や卒業生にも敬意を払う必要がある。